

# 地域の技術を守る 企業をサポート

中小企業基盤整備機構中国本部(広島市)は、地域資源を活用した事業に取り組み中小企業を応援しています。呉市仁方のやすり製造会社ワタオカは、同本部のバックアップのもと、新商品を開発して大ヒット。同社代表取締役の綿岡久美子さんに開発秘話や中小機構の魅力について聞きました。



ワタオカ代表取締役  
綿岡 久美子さん

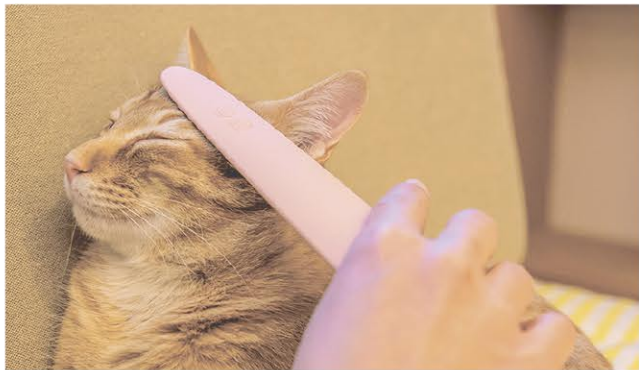
— 会社の取り組みや業界の状況を教えてください。

1890年創業の当社は、のこぎりの目立てに使う両刃やすりを中心に、鉄工用や木工用、細工用のやすりなどを製造しています。仁方地区のやすり産業は1800年代に始まり、国内生産額の95%を占めます。その一方で、やすりが不要な電動工具の普及や製造業の海外移転などで需要が先細り、厳しい状況にあります。職人の高齢化も進む中で、状況を打開するには、やすり作りで培った技術を生か



高度な技術が生んだ「なめらか爪やすり」

した新たな製品開発が課題でした。そこでまず、爪の手入れをするための「なめらか爪やすり」を2012年に開発。3



ネコの舌のザラザラ感を樹脂製のやすりで再現

年に樹脂製のやすりを試作しました。しかし、切れ味がおとなく、使いにくいため断念。2年たった頃に、お蔵入りしていた樹脂製やすりを取り出して、何気なく飼いのネコをなでてみると、気持ち良さそうな顔になり、毛がごっそり取れました。「ネコのザラついた舌と樹脂のやすりの表面が似ているのではないか」。そう気づき、ネコ用ブラシの開発に着手しました。

16年9月に中小機構が主催する事業者向けの個別相談会「商品力向上!会議」にも参加。より個性的な商品にするため、毛

り面でどう再現するか。3Dプリンターで試作を繰り返し、刃の先端がギザギザになるよう、溝の深さや間隔を何度も調整しました。商品のサイズは長さ210ミ、幅35ミ。ネコの毛をなでると毛繕いのようなリラックス効果が期待できます。工場で保護したネコに使ってみると喜び、すぐに懐いてしまったほどです。



大ヒット商品となった「ねこじゃすり」

— インターネットで資金を募るクラウドファンディング(CF)も活用しました。

開発費を調達するとともに、商品への市場ニーズを確かめる目的もありました。昨年9、10月の2カ月間で、目標の30万円を大きく上回る283万円に達しました。その後、中小機構の助言で、自社ホームページに開発ストーリーを載せて予約販売を始めたところ、12月上旬の発売前に、CFと合せると4800本の予約をいただきました。

— 発売後の反響は。

発売から3カ月たった現在まで販売本数は1万本を突破。128年の社歴で最大のヒット商品になりました。中小機構には商品コンセプトをはじめ、「ねこじゃすり」のネーミング、販売方法などで、役立つ意見や提案をいただき、感謝しています。商品で得た利益は人材の育成やさらなる新商品の開発に生かします。より良い商品づくりにチャレンジし、やすり産業を元気にしたいですね。

を取るのではなく、ネコを気持ち良くする点だけを目的にしたブラシにするといったコンセプトを固めました。

— 特に工夫した点と商品の

特長は。

ネコの舌のザラザラ感をやす

方向からやすりの目を立てる高度な製法「三度切り」で、爪の断面の細胞を壊さず、滑らかな仕上がりを実現し、年間千個を売る人気商品になりました。

## 二人三脚で商品開発

— 中小機構との関わりは。  
爪やすりが完成する頃に広島県から紹介を受けました。事業計画づくりをはじめ、商品力やブランド力向上のための助言や提言、専門家を派遣しての技術指導、販路開拓の支援などをお願いしています。爪やすりは中小機構のバックアップにより、地域の産業資源活用計画に認定され、助成を受けられるようになりました。加えて、ここ数年間で特に手厚い支援を受けたのがネコ用のブラシ「ねこじゃすり」の開発です。

— 開発のきっかけは何ですか。

最初は、野菜や果物を擦るキッチン用のやすりを考え、13

### <新事業創出支援>

中小機構は新たな事業活動を目指す中小企業をサポート。国から事業計画の認定を受けることにより、さまざまな支援策を受けることができます。



### サポート

<主な支援メニュー>



### 中小機構とは

中小機構は経済産業省所管の独立行政法人で、正式名称を中小企業基盤整備機構という。中国本部など全国10カ所に地域本部を置き、中小企業施策の総合的な実施機関として役割を果たしています。

企画・制作 中国新聞社地域ビジネス局

